

## 第 4 回 天理市上下水道事業経営審議会 議事録

会議名称	第 4 回 天理市上下水道事業経営審議会
開催日時	平成24年 2 月 23日 (木) 13:30～15:30
開催場所	天理市上下水道局 2 階会議室
出席委員	伊藤忠通 中室克彦 佐々岡典雅 山口福雄 小川善正 川崎祥記 国米辰雄 東田匡弘 南 一則 桃原璋和
欠席委員	大中由美
出席職員	中谷上下水道事業管理者 小堀局長 中畑次長 寺田総務課長 藤岡給水課長 幸田下水道課長 山本浄水課長 大沢経営課長 平畠経営課長補佐 岡林経営課企画係長 吉岡経営課主査
会議次第	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議事録署名人の指名 4. 議題 ①水道事業の課題と対策について ②水道事業の更新計画について ③県営水道へのシフトについて 5. その他 6. 閉会

議事内容

司会 会長 議長	<p>【開会】</p> <p>【あいさつ】</p> <p>【議事録署名人の指名】</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。議題①「水道事業の課題と対策について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 議長	<p>【①水道事業の課題と対策について(別紙1)】</p> <p>ありがとうございました。事務局から説明がありましたが質問ございますか。</p>
委員	<p>基幹管路耐震化率は、37%にとどまり、これが低すぎるから耐震化目標を見直していこうということですが、どの程度まで高めていくのかをお聞かせ願いたい。</p>
事務局	<p>全国平均までには上げていきたいと思っておりますが、実際には再度検討して、そこに耐震化率が付いてくればいいかと思っております。審議会でご意見をお訊きして、それを参考に決めていきたいと思っております。</p>
委員	<p>耐震化に関しては、財源と事業費をセットで考え、慎重に計画されたと思いますが、それが何年も経たないのに、なぜ今の時期に見直すのでしょうか。国でも財源手当が優遇されるから計画よりも繰り上げてやるのかなと思うのですが、その点はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>今のご質問の内容は、更新計画のところで説明させていただきます。</p>
委員	<p>課題と対策ですが、今後の事業を考えた場合、天理市としてプライオリティー(優先順位)をどこに重点を置くのでしょうか。</p>
事務局	<p>今後、収益が減少する中で、いかに施設の更新を行う</p>

議長	<p>かということと、県営水道へのシフトを含めまして、方向性をどのようにしていくかということです。</p> <p>水使用量の減少に伴う収益の減少という課題をいかに対応していくかということと、更新時期がきている施設をいかに計画的に更新していくかが大きな課題であって、収益に関しては県営水道との関係、また危機管理等についても対応していく。ただ、事業経営という視点で、事業収入、事業経営の問題と耐震化への対応が重点課題だと受け止めてよろしいですか。</p>
事務局	はい。総合的に考えて参りたいと思います。
議長	他にございませんか。
委員	<p>料金の逡増制に関して、整備途上においては、施設能力がないから逡増性をきつくして、なるべく使用量を抑えてもらおうということで進んできたのですが、今になって逆に緩やかにしようということで、その理屈付けが難しいのですが。その点は、どうですか。</p>
事務局	<p>拡張が一段落し、更新の時代の中で、たくさん水を使っていただけるところがあるのに、料金が使うほど高くなるため、もう少し安いところで事業をしようという企業が出てくるのではという懸念もあり、料金を抑えて天理市で水を使っていたきたいという思いもございます。</p>
委員	確かにそれは考えていかなければだめですけど、説明が難しいでしょうね。今まで言ったことと、違う事を言わないと納得していただかないといけませんので。
議長	今の委員の質問について、おそらく、水道を巡る状況の変化、水需要の減少等の背景があつて、しかも施設が整備されてきた、つまり状況変化の中で料金の見直しが必要ということだろうと思います。そのあたりは

<p>事務局 議長</p>	<p>料金体系の見直しのところで議論されると思います。 その時に事務局が説明できるようにお願いします。 他、いかがでしょうか。 全般的にこういう課題があるということ、認識されるということによろしいでしょうか。 それでは議題②「水道事業の更新計画について」を事務局から説明をお願いします。</p> <p>【②水道事業の更新計画について(別紙2)】</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。この説明に関していかがでしょうか。耐震レベル2は震度6～7ですが、レベル1の震度はどれぐらいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>震度では示されておられません。最大規模の震度以外の全てになるかと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>管路の更新について、耐用年数45年以上経過した物だと思うのですが、破線または線で示されている管路は、すべてそれ以前の管路ですか。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>以前の物もありますし、それ以降の物もあります。 主要幹線のすべてを更新するという計画ですか。</p>
<p>事務局 議長</p>	<p>はい、そうです。 他に、ございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>給水基地の受水池・配水池等の施設それぞれ耐震化が済んだ年数と何年使用した状況で耐震化を行ったのか判りますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>耐震化の年度については、後ほどお答えさせていただきます。耐震化済の施設は、土木構造物として震度レベル2に対して耐震性を有する、震度で言いますと震度7に耐えられるという施設でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>耐用年数40年の更新を5年延ばした判断基準は、耐震との絡みでどうなっていますか。例えば、国が耐震の</p>

事務局	<p>チェック項目を増やせば厳しくなるので、耐震構造に早くしないとだめだというような状況が起こり得ると思うのですが、更新を45年にすることは、あくまで耐震とは切り離れた形の評価なのでしょうか。</p> <p>今の質問ですが、すぐに資料的に揃えられないので、次回に揃えさせていただきます。</p>
委員	<p>40年が45年という判断が、どのレベルで判断をされているのかということと、財政上は遅らせた方が有利だということが当然あると思いますので、5年延ばしても充分安全だという根拠があるとは思いますが、そういう意味での基準を教えてください。</p>
事務局 議長	<p>資料を揃えまして、次回に報告させていただきます。</p> <p>委員のご質問は、40年を45年に判断する根拠が国の指導があったのか、天理市独自に考えられたのかということですが、それも含めて次回に報告をお願いします。</p> <p>他に質問ございますか。</p>
委員	<p>基幹管路の耐震化について、今の37%を何%引き上げるのかという説明がなかったように思えるのですが、その点はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>37%では全国平均から見ても低いので、もう少し更新をしていかなければなりません。現時点では目標を何%に置くのかは決定していません。</p>
委員	<p>平成23年度からの計画で、年度も終わってないのに見直すというのはどうでしょうか。財源とセットで考えることは良いことだと思うが、37%というのは上限ではないのだから、そんなにこだわらなくてもいいのかなというのが僕らの受け止め方なのですが。</p>
事務局	<p>更新計画につきましては、平成19年から実施していますが、国では早期に100%にこなさいとあり、出来る</p>

	<p>だけそれに近づけたいと思っております。ただし更新には多大な費用が要ります。また、県水の料金改定もございますし、その点も踏まえて、考えていこうと思っております。</p>
委員	<p>見直しはしっかりしているが、どんな方法ですかですね。37%が実質40%になっても構わないのだから。</p>
事務局	<p>財政状況を考慮すれば達成率が37%になるのですが、料金改定等を行い、短期に資金を投入してもっと早く100%に近づけるといえる考えもあるわけですね。その辺も含めて考えていきたいと思っております。</p>
委員	<p>財源とセットにしているので評価できるのですが、今、なぜ変えなければならないのかが疑問点です。</p>
事務局	<p>いろいろな考えがありまして、このままでよいという考えの方もいらっしゃるかもしれません。その場合「早くやらないと。」というご意見も出るかもしれません。ただ天理市の場合、収益が落ちているため、更新費用が見繕えないという現状です。なおかつ、それを早くする場合には、料金の見直し等を考えていかなければなりません。皆様のご意見をお聞きしたいと思っております。</p>
委員	<p>収益ベースで、収益は当然料金だけで、収入だけで原価計算して、それよりも高い使用料をもらって、それも考えて処分して建設に回すのかということをお聞きしたかったのですが。</p>
議長	<p>今の委員のご質問のきっかけは、「更新計画23」では将来見通しの基幹管路の耐震化率 36.46%が、「更新計画24」では 37.81%に上がっているが、その数字の変化はなぜですかということで、その説明をされれば、判っていただけたらと思います。</p>

事務局	「更新計画23-①」の36.46%と「更新計画24」の37.81%の違いは、「更新計画24」は、平成24年度から平成33年度までの計画でございます。「更新計画23-①」は平成32年度までなので、平成33年度の1年分を加えたその差でございます。
議長	引き上げたわけではなく、1年進むと、これだけ上がるということですか。
事務局	はい、そうです。
議長	1年分でこれだけパーセンテージが上がるということですね。計画を変えたわけではなく、1年1年進行していくと、これだけ上がるということですか。
委員	37.0%が低いから見直すと言っていますので、どうするのですかということですか。
議長	それは今後、審議会で議論して見直していくということで。見直した結果、現状維持ということもあります。これからの審議の上で決まっていくということですか。他に何かございますか。
事務局	先ほどの質問の回答は出ないでしょうか。 設置年度が判りましたので報告いたします。 給水基地一覧表の施設名の上から順番に申し上げます。石上北県水受水池が平成6年、石上北低区配水池（No2）が平成10年、東部配水池が平成9年、園原南県水受水池が昭和63年、天理駅前緊急貯水槽が平成14年、県営水道送水管第1応急給水栓が平成21年、県営水道送水管第2応急給水栓が平成22年でございます。
議長	ありがとうございました。その他については、次回ということをお願いいたします。 それでは次の議題「③県営水道へのシフトについて」を事務局から説明をお願いします。

事務局 議長	【③県営水道へのシフトについて(別紙3)】 ありがとうございました。先ほどの水道事業の更新計画と関連していますので、それを含めてご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。
委員	県域水道ビジョンの「奈良市水源の有効活用を視野に入れた将来的な水道一元化」という案は、どのようなものですか。
事務局	奈良市は大きな水源をお持ちですので、その活用を含めて考えていくということです。
委員	その一元化というのは、例えば東京都水道局のような都一つで全部、水道局で給水までするという踏み込んだ、全部一元化して水道事業としてやっていくのかという考えなのか、水道供給事業として一体化を図るといふ所でとどめておくのか。この辺はどうでしょうか。
事務局	天理市として、水源を自己水とするか、県の受水とするか、どちらか有利な方を選んでください。そして県水の方が有利であれば県水を使ってくださいという意味の一元化でございます。
委員	ということは、水道事業の一元化を踏まえて考えているわけではないということですね。
事務局	はい、そうです。
議長	他にいかがでしょうか。
委員	県営水道へのシフトの理由で、水源の確保がありますが、奈良市の水源を融通してもらえるのであれば、それも水源確保の1つの選択肢である。この県水へのシフトの意味・定義を教えてくださいなのですが。奈良市との協調は可能なのでしょうか。
事務局	私どもが考えているシフトは、県水の受水を100%にするかどうかという意味のもので、特に奈良市の水源



委員	<p>を使わせていただくということは考えておりません。あくまでも県営水道の受水という一本でのシフトというこの理解でよろしいですね。今回の場合は。</p>
事務局	<p>はい、そうです。</p>
委員	<p>そういう意味では、急にこれを持ち出してもという議論になるかもしれませんが、そういう方向も一つあるのではないかなど。県営水道の一本化であれば、将来的に全部失くすということシフト化を図ろうとされるのですが、これに伴うプラスマイナスの中に、県営水道への負担金の問題等が当然あると思いますし、100%県営水道を信じていいのかという議論も前提要件としてありますよね。県営水道が潰れたら、ここも潰れてしまうので、そのことも踏まえて議論をしないと。無条件で受水だけの視点で考えるのは、少しおかしいのではないかなど。その辺もいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>次回には、メリット・デメリットという形で、お金の部分だけではなく、おっしゃられた部分を含めまして、整理しまして、お示しさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>財政的なことを申しますと、柚之内浄水場の14.4%を県水から戴き、柚之内浄水場の維持管理を0にした場合に、どうなのかという案も出て来てもいいのかなど。最終的に県水100%でダメな場合に、この事がその時点で出てきても効率が悪いということがあって、可能な限り、案を立てた方がいいのではないかと。この案の出した理由、どういう根拠で、この案を最適な案だと思われたのかもお聞かせ願いたいです。</p>
事務局	<p>豊井浄水場を活用する方が財源的には有利ですし、柚之内浄水場も、もう少し製造すれば単価も県水よりは安くなると想定しており、財政的には自己水を活用す</p>

	<p>る方が有利です。県営水道へのシフトを案として出しているのは、今後莫大な更新費用も掛かりますし、トータルで考えまして、今後の天理市の水道事業がどういう方向に進むのがいいのかというご意見を戴きたいという意味でお出ししております、県水へのシフトを一番に考えているわけではありません。</p>
委員	<p>次回に、ある程度試算した資料を出していただくという説明がございましたが、今おっしゃられた通りだろうと思います。私の方からすれば、決め付けていけないのは判ります。ただ、一元化の問題もありますし、確かに、豊井浄水場、柚之内浄水場で作る数字に表れている。しかしながら、メリット・デメリットの中で、減価償却、人件費等の提示をされましたから、もしも「パターン2」を選択した場合、想定される数字を提示していただきたい。福住にポンプアップしましたが、過去には布目水域から天理へ供給の案があったのです。この選択肢を誤ったのではないかなど。水は上から下へ流れるものなので、なぜ布目からの提案を断わったのかと。このような事も踏まえて、ありとあらゆる中でこの審議会で見解を出し尽くして、是非、次回には出来るだけの数字、資料を出していただきたいと思っております。</p>
委員	<p>企業債の新規借り入れの予定がないということですが、この施設更新等の関係で、シミュレーションの内容で企業債が増加することが有り得るのでしょうか。</p>
事務局	<p>更新費用が増え、自己資金のみでは無理だという時は、企業債を借り入れる事も検討します。あと補助金という形も当然検討していくことになります。</p>
委員	<p>シミュレーションの中では、その辺は特に触れないの</p>

事務局	<p>でしょうか。見通しがつきにくいところですが。</p> <p>企業債の残高が、一時は100億円を超えており、財政的に厳しくなるということで、出来るだけ企業債の残高を減らしたいというのがございました。今現在は50億円を割り、企業債残高も少なくなってきましたが、資金が潤沢にあるわけではありませんので、現在も自己資金の範囲内で更新をやっていこうという考えです。企業債を借り入れると利息が発生し、損益収支にきいてきますので、今後もこのように考えております。</p>
委員	<p>上水と下水がありますが、企業債の発生する原因は、どちらの方がどうですかね。上水と下水との関連で企業債はどのように考えていけばいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>会計が違いますので、別々に資金が必要かどうかを考えなければなりません。下水道については、これまでかなり企業債を仰ぎまして増えているのですが、普及率も100%近くになり、今年度及び来年度につきましても、投資は減っております。上下水道局になる前の特別会計時代には、確かに資金的に無かったものですから、企業債を仰ぐという形にはなっていたのですが、今は下水道の事業量も減ってきていますので、起債もそれに応じて抑えている現状でございます。</p>
委員	<p>どういう企業債なのか。金利はいくらで、どこからどういう形で借りているのかということと、利率が高いはずなので、金利を減らす等の対策がとれるものであるのか教えてほしいと思います。</p>
事務局	<p>現在、水道事業は、起債は仰いでいないのですが、約40億円残っている中の利率は、すべて5%以下でございます。一時は8%ぐらいの利率があったのですが、これは平成19年度から21年度の3年間で、高利率の企業</p>

	<p>債の繰上償還をいたしました。この3年間につきましては補償金免除という国の制度がありましたので、それを活用しました。その3年間で約21億円繰上償還しまして、それにより、後の年数の間で5億円の利息の軽減にはなっております。同じように下水道事業も、当時は市長部局ですが、一部繰上償還、低利への借換えを行っております。今、8%という高い利率の物は残っていないと思います。現在、下水道事業につきましては、企業債を借り入れするのですが、現在の利率は、1.7%~2.0%ぐらいの利率でございます。</p>
委員	<p>水源別の費用でございますが、豊井浄水場の製造単価が柚之内浄水場の半分以下となっておりますが、どうい う浄水レベルだからこんなに差がつくのでしょうか。</p>
事務局	<p>豊井浄水場の浄水処理は天理ダムからの自然流下で処理しております。第1に豊井浄水場では、動力費が配送に関しては発生しておりません。柚之内浄水場は、深井戸を市中の低い位置から高い位置へ汲み上げる処理場でございますので、動力費がその分掛かっています。第2に豊井浄水場では日量1万トンの取水を いたしまして、コンスタントに浄水処理をしておりますが、柚之内浄水場は、豊井浄水場と県水との受給調整を しておりますので、どうしても製造量が小さく、分母が小さくなりますので、固定費を小さい分母で割る関係上、 原価が高くなります。柚之内浄水場は日量3,700トンぐらいですが、フルに使いますと日量5,400トンぐらいに 最大で造れる状態をこのレベルで受給調整をしておりますので、分母がかなり小さくなって おります。</p>
委員	<p>当然、同じ水質で出来るのですね。</p>
事務局	<p>水質は逆に深井戸でございますので、原水としては柚</p>

	之内浄水場の方が良いです。
委員	166円と77円は、もの凄く違いますよね。規模のメリットだけで説明出来るような額ではないと思うのです。
事務局	一番きいてくるのは、減価償却費。規模のわりに減価償却費が高い。それと動力費です。
委員	柚之内浄水場のコストが高いと、ここに示されていますが、深井戸何本ぐらいから汲み上げているのですか。
事務局	現在稼働中の井戸は13本です。
委員	まだ余裕あるのですか。
事務局	はい、余裕ございます。
委員	これは相当ポンプ等の財源コストが高いのですが、もう少し井戸を絞って、少ない井戸から汲み上げて、そのコストを下げるとか出来ないのでしょうか。
事務局	県水を需給に応じて上げ下げさせて頂けたらよいのですが、県水の方も「コンスタントに取ってください。」というものになってございまして、豊井浄水場は私どもにしては一番安く出来るので、フルに処理しております。どうしても上げ下げ、夏冬、日によっては、出る量が変わりますので、そのシワ寄せが井戸の方へ。
委員	県営水道へのシフトで、トリハロメタンの事がございしますが、検討資料として、この10年間の天理ダム、豊井浄水場の原水と、県水のトリハロメタンの10年間の推移等を比較資料として添付していただきたいです。
事務局	はい、次回ご用意させていただきます。
委員	奈良市との水の供給を受けて、布目川から、今福住はポンプアップですね。それを向こうから取り入れるということは、なかなかコスト的には厳しいですか。
事務局	過去に布目の水利権を放棄した経緯がありまして、現在は水利権がございません。

委員	豊井浄水場は単価的に安いですが、この供給の規模をもう少し大きくするという事は出来るのですか。
事務局	布留川の水利権の日量1万トンが上限でございますので、これ以上浄水処理を上げることができません。
委員	いろいろ、天理市においても産廃問題が起こりまして、一層の事、県水にシフトしたらいいのではないかという話しも多々あったわけですが、今はそういう問題も解決に向かっているところでございますので、出来る限り、この枠之内のきれいな水をもう少し供給していただいたらいいのかなと思います。
事務局	はい、ありがとうございます。
委員	天理市に住んでいまして、過去の経緯は選択肢が誤ったなど。需要と供給の中で天理市は天理教との共存共有の中で、こどもおぢばがえり等プールの使用で夏の渇水時に全然足りないという経緯があった中で、県水を買わざるを得ない。県水は、たくさん使ってくれという契約の中で、使った分だけであればいいのですが、これが出来ないというのが現状です。豊井浄水場でもっと製造すればいいのではないかということだが、国土交通省の関係で1万トンというハードルがある。かたや井戸をもっと掘ったらいいのではないかというのも、メリット・デメリットが出てくる。だから、最大限に活かして、効率のいい形を、ここで審議されているわけです。ところが県にしたって、都合の良い時だけ水を売れということとはできない関係で来ていますので、その中で奈良市の一元化の問題も出まして、我々が如何にどういう選択をするのかだと。やはり説明の中で、天理市がこれだけの全体量を年間通じて要る中でそうせざるを得ないと。夏になればギリギリの渇水

	<p>時で冷や冷やしているという現状なのです。審議会では屈託の無い意見を、ありとあらゆるハキハキと「こうだ。」ということを行わないと意に添えない会議になる。判り易い説明の中で行く方が。次回の資料を楽しみにしています。</p>
議長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>豊井浄水場の製造単価、76.68円ということですけど、これは奈良県下の他市の単価レベルと比べてどうなのでしょう。</p>
委員	<p>インターネット等で調べますと、全国の水の単価の資料が出ていまして、天理市が高い部類に入っているという状況であります。豊井浄水場と柚之内浄水場と県水は、豊井浄水場が非常に安いのですが、そもそも豊井浄水場の単価が他市と比べて安いのか、高いのかというところも一度分析をしていただきたいと思います。</p>
議長	<p>次回までに出来る範囲で資料を揃えていただきたいと思います。</p>
委員	<p>単価ですが、製造単価と料金との両面があるので、製造した時に料金としてどれだけ取っているか。料金の方はインターネットで出ているのですが、個々の製造単価は見えない部分がありますので、調べていただきたい。料金と製造単価は別ですから。両方ある方が考えやすいです。</p>
事務局	<p>ここに表しているのは、製造単価でございますが、配水に掛かる共通費用は、平成22年度の決算ベースで107円掛かっております。豊井浄水場、柚之内浄水場、県営水道それぞれの製造単価に107円を加えた単価がすべての費用になり、豊井浄水場は183円、柚之内浄水場は273円、県営水道は274円になります。給水原価につ</p>

<p>委員</p>	<p>きましては、費用を有収水量で割りましたら、1 m<sup>3</sup> 当たり250円あまりとなっております。</p> <p>用語の確認ですが、『消毒副生成物』と表現してください。トリハロメタンは前駆物質ですが、天理ダムの場合、最終的には富栄養化に由来する物によってトリハロメタンが上がると思いますので、基本的には『トリハロメタン対策』＝『富栄養化対策』という概念で対策を立てていただきたい。それと数値が0.06mg/Lで基準よりは低いのですが、やや高めなのかなと思います。普通10分の1以下だったら安全位置でいいのですが、基準値に近づいているのかと感じています。また、県水との比較をする場合は、室生ダムも同様に、同じ問題を抱えているのだから、将来的にそういうものを含めて考えていかないと、正確な比較にはならないので、先ほど言われたデータの方もよろしくお願いします。</p>
<p>議長</p>	<p>経営シミュレーションのスケジュールを示していただきましたけれど、非常に複雑な気がします。更新計画24・24-①で、5月は『財政事情優先』、7月は『耐震化を優先』と書かれています。これを別々にシミュレーションするのではなくて、まず基本条件、今後の財政の状況があって、その中でどれだけの耐震化が図れるのかということ、本来一つになるはずですが、それがあって、その中のパターン分けで、現状維持か、県水にシフトするのかというスタンスが出来ると思います。それと現状維持、100%県水だけではなくて、その中間もあるはずですから、どれがベストか。それをシミュレーションでパターンを決めてもらえれば、要するに県水の単価料金によってどうなるかであって、これは後で数字を入れ替えたなら、事前に考えたパターン</p>



	<p>でどれが最適なのか判別できるわけですから。基本は財政の今後の状況をまず前提条件にして、耐震化率が従来の計画ではどうなるのか、あるいは短縮によって引き上げたらどうなのか。シミュレーションの中で、県水と自己水比率が現状維持なのか、県水の比率を上げていくのかという中で、経営が、どれが安定しているのかという判断をした方がいいと思います。それで9月の県水の料金が決まったら、その条件の中でどれが最善なのかという判断が出来ると思うので。少しその辺を工夫していただければ、10月に新たな計画を作る必要がないと思います。</p> <p>では、最後に何かございますか。</p> <p>無いようですので、これで審議は終了いたします。では、次第の「5. その他」で事務局何かございますか。</p> <p><b>【事務連絡】</b></p> <p>最後に会議の公開について、次回の会議の内容も公開しても差し支えない内容と思いますので、公開とさせていただきます。よろしいでしょうか。</p>
事務局	
議長	<p>只今、事務局から提案ございましたが、次回の審議会については公開ということよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
議長	<p>異議なしということで、次回は公開で進めていきたいと思えます。</p>
事務局	<p><b>【閉会】</b></p>